

学会参加旅費に関するホームページ公開用報告事項

氏名：瀬之口潤輔

指導教員：倉橋節也

提出日：2013年12月27日

参加した学会

学会名	Knowledge Management Organization
日程	2013年9月12日（木曜日）－2013年9月14日（土曜日）
場所	National University of Kaosiung, Kaosiung, Taiwan

発表のセッションとタイトル

セッション名	Section 5: Knowledge Management in Business and Organization
日時	2013年9月13日（金曜日） 10:40－11:05
発表・質疑応答時間	25分
タイトル	Bank Stock Leading Indicators and Extraction of Trigger Points
著者（発表者は下線）	瀬之口潤輔、倉橋節也

発表概要（250字程度）

銀行株が大きく変動する前の兆候を特定することができれば、金融危機を予知・回避する対策も講じられる。よって本研究では、過去に銀行株が変動したとき、その直前にどの金融経済指標にどのような共通点があったかを抽出することにより、銀行株が上昇または下落するトリガーを特定することを目的とした。本研究で使用する説明変数として、長期金利や為替レートといった94種類の金融経済指標を作成した。分析手法として、ロジスティック回帰分析、サポート・ベクター・マシン、J48、ランダムフォレスト、の4つの手法を用いた。その結果、数多くの要因の中から、株価の変動に影響力の大きいものを特定することができた。

質疑内容（200字程度）

信用乗数（マネーサプライをベースマネーで割ったもの）が銀行株の重要なトリガーとして選択されたが、むしろマネーサプライの増加率が銀行株の重要なトリガーであることを示す先行研究がある。次回は増加率を加えた分析を勧められた。また株価予想の研究としては、株価の相対リターンを対象とした時系列分析が主流であるため、この研究の特徴についての質問があった。これに対して、分布を前提としないこと、またある閾値を超えることによる株価への影響を分析したことが特徴であると回答した。

感想（200字程度）

自分が行っている研究は特殊で、国内の一部の人との間でしか議論や協働ができなかったと思っていたが、国際会議に参加して、同様な研究が日本以外の国でも行われていることを知り、海外で同様な研究を行っている人とつながることにより、広範囲かつ深い議論ができると感じた。また会議では、専門分野が異なる多くの発表者が参加したので、分析手法の専門的・技術的な議論のほかに、金融の分析に関する一般的な理解や先行研究に関して、質疑または発表後の議論で大いに学ぶことができた。